

令和5年度 第1回 富田林市、太子町、河南町及び千早赤阪村
地域公共交通活性化協議会 議事録

日時：令和5年10月5日（木）午後2時～午後4時
会場：河南町保健福祉センター「かなんぴあ」2階 大会議室

●出席委員 28名

猪井委員、中村委員、内田委員、鬼追委員、伊東委員、高平委員（亀井氏が代理出席）
西田委員、湯口委員、金谷委員、岡崎委員、古川委員、伊藤委員、川邊委員、井関委員
池田委員、野谷委員、白江委員、藤田委員、松崎委員、芝辻委員、市村委員、田内委員
嶋田委員、才門委員、松田委員、齋藤委員、渡邊委員、稲山委員

●欠席委員 0名

●公開・非公開の別 公開

●傍聴人数 61名

●会議次第及び議事要旨

案件

(1) 地域公共交通活性化協議会について

事務局より資料2に基づき説明した。

(2) 副会長及び監事の指名について

会長の指名により、副会長は猪井委員が、監事は金谷委員と古川委員がそれぞれ選任された。

※事務局より議事の都合上、(5)を先に協議する旨の申し出があった。

(5) 金剛自動車株式会社のバス事業の廃止に伴う新たな公共交通の検討について近畿運輸局（オブザーバー）より全国のバス事業の状況について説明した。

事務局より資料6に基づき新たな公共交通の検討について説明した。

質疑及び意見等は議事概要のとおり。

(3) 諸規程の制定について

事務局より資料4-1～4-4に基づき説明し、各委員にて了承された。

(4) 令和5年度予算（案）について

事務局より資料5に基づき説明し、各委員にて了承された。

(6) その他

事務局より会議の開催日について説明した。

第2回 10月19日（木）、第3回 10月26日（木）それぞれ午後を予定

●資料

資料1 委員名簿

資料2 富田林市、太子町、河南町及び千早赤阪村地域公共交通活性化協議会の概要について

- 資料3 富田林市、太子町、河南町及び千早赤阪村地域公共交通活性化協議会副会長及び監事の指名について
- 資料4-1 富田林市、太子町、河南町及び千早赤阪村地域公共交通活性化協議会傍聴規程（案）
- 資料4-2 富田林市、太子町、河南町及び千早赤阪村地域公共交通活性化協議会事務局規程（案）
- 資料4-3 富田林市、太子町、河南町及び千早赤阪村地域公共交通活性化協議会報酬及び費用弁償規程（案）
- 資料4-4 富田林市、太子町、河南町及び千早赤阪村地域公共交通活性化協議会財務規程（案）
- 資料5 令和5年度富田林市、太子町、河南町及び千早赤阪村地域公共交通活性化協議会予算（案）
- 資料6 金剛自動車株式会社のバス事業の廃止に伴う新たな公共交通の検討について
- 参考資料1 富田林市、太子町、河南町及び千早赤阪村地域公共交通活性化協議会規約
- 参考資料2 令和4年度乗合系統別輸送人員実績表

●議事概要

案件

(5) 金剛自動車株式会社のバス事業の廃止に伴う新たな公共交通の検討について

高平委員（代理亀井氏） 富田林土木事務所としても道路管理者という立場で、積極的に本件の議論に関わることができればと思っている。

情報提供として、本件に関しては、現在開会中の大阪府議会でも、注目されており、昨日も大阪維新の会の鈴木憲府議から、将来にわたる地域公共交通の維持に関する質問がされている。

吉村知事の方から南河内地域の交通課題を解決するために、レガシーとして金剛バス廃止のエリアで、万博で使用する自動運転バスを活用できるように、知事自身リーダーシップを発揮して、必ず実現させたいという答弁もなされた。

交通をいかに確保するのかということに関しては、路線バス協力事業者との協議はもとより、それ以外の路線等についても、様々な交通サービスの検討というのをしっかり行っていただきたい。

松田会長（議長） 先ほど各市町村からも検討している説明があり、また、公共交通全般を取り巻く状況も非常に厳しいという話も聞いているが、その辺について意見はないか。

古川委員 これからやっぱり地域のために、そして命に関わるような、公共交通について協議をしていくべきと考える。

河南町の自家用有償旅客運送について、河南町域内限定と書いているが、富田林市域内の駅まで行かないと意味がないのではないか。

- 事務局
(河南町) 委員が指摘するとおり、現在、河南町の自家用有償旅客運送については、運送許可が河南町域内に限られている。
まずは、路線バス協力事業者との協議を行い、今後は広域に跨る路線としてこの協議会で協議をしていきたいと考えている。
- 猪井委員 やはり今の状況というのが、医療で例えると出血している状況である。
本来は自動運転など様々な技術の導入なども含めて考えるべきかもしれないが、12月20日には金剛バスが廃止となることを考えると、まずは、検討する時間を作るための応急処置として、医療で例えると、この出血を止めて、その後で体質改善などを考えるべきである。
この協議会は、少なくとも2年続くので、その中で体質改善にあたる検討はしていくべきと思う。
そのような状況であるので、まずは、様々な不安はあるかと思うが、出血を止めることを意図した事務局の提案をもとに検討をいただきたい。
- 松田会長
(議長) 先ほど提案があったように、まずは喜志循環線、阪南線、さくら坂循環線、千早線、東條線の5路線について、路線バス協力事業者と運行協議を進めていく。それ以外の路線については、代替交通の確保に向けて協議を進めていくということによろしいか。
- 各委員 異議なし

以上